

2023年度の採択者数は、第一期0名、第二期1名、第三期0名。

● 採択者詳細

◆ 第三期採択者

氏名	村山エミ
所属学部等	大学院人間文化総合科学研究科博士前期課程住環境学専攻
発表論文名	IMPACT OF DAYLIGHT CHANGES ON PSYCHOLOGICAL AND PHYSIOLOGICAL ASPECTS OF RESIDENTS IN, APARTMENT BUILDING
国際学会等の名称及び概要	-The 30th Quadrennial Session of the CIE- 国際照明委員会(International Commission on Illumination)により4年に1度開催される。新型コロナウイルスの影響から5年ぶりの開催となった今年は Innovative Lighting Technologies をテーマに科学や芸術、工学、各産業界から光や照明技術に携わる専門家、研究者たちが集まった。
開催地	スロベニア・リュブリャナ
開催期間	2023年9月15日～2023年9月23日

◆ 発表概要

日照問題は長きにわたって議論の対象とされてきた一方で、近接する建物による日照条件の変化やそれに伴う周辺環境の変化は通風や温湿度、プライバシーなど多岐にわたり影響を及ぼすことから、これら複合的な観点で評価を行った研究は多くない。そのため、今回発表した研究では、集合住宅における日照量の変化が居住者の心理生理面にどのような影響を及ぼすのか、生理量、心理量、物理量の測定をもとに分析を行い、明らかにすることを目的とし実験を行った。

本研究では、既存の7階建てマンションの南面に近接した土地における8階建てマンションの建設により、実際に日照が遮られることが予想される状況下にて、7階建てマンションの居住者を対象とした被験者実験を行った。本研究の実験はマンション建設初期から並行して行われ、2022年4～5月(春)、7～8月(夏)、12月終、2023年3月(春)の計4回実施した。実験期間はそれぞれ1週間であり、被験者である20名の居住者が10名ずつ2週に分かれて実験に参加した。

実験内容は、20名の被験者を対象に7つのアンケート調査による心理量の測定や睡眠内省の評価を実施、また活動量計の装着と心拍数の記録による睡眠変動等を含む生理量の測定、ストループ検査による注意や干渉の抑制機能の働きについての評価を行った。物理量測定では、調査期間中各被験者宅のバルコニーに面した2部屋の照度・温湿度を測定した。20名の被験者実験・物理量測定に加え、各調査期間中における工事による騒音の測定や、同マ

ンションの全 69 世帯を対象としたアンケート調査による心理量の測定を行った。今回の発表ではこの中から、睡眠リズム(生理量)、印象評価(心理量)、照度測定 (物理量)の結果を扱った。

◆ 成果及びその他参考となる事項

今回の国際学会への参加は、各国の研究者との交流の機会を得られただけでなく、自身の知見を広げる貴重な機会となった。本研究は近接する建物の影響による日照量の変化に着目している為、これまで参加した日本国内や日中韓が主体となった学会では、日本・アジア圏で多くみられる、集合住宅における日照問題の視点から研究助言を頂くことが多かったが、日照時間の短いヨーロッパや緯度の高い地域などでみられる冬期うつなどにも共通する観点を持つ研究であることから、今回様々な国の研究者からこれまでとは異なる新しい視点で教示を受けることができた。これまでにない質疑応答を経験することが出来たことは、今後の研究活動・修士論文の執筆にあたり大きな意味をもっと考えられ、多方面から研究を見直すきっかけにもなった。また、移動中にはスロベニアの街並みを見ることが出来たため、採光への工夫や日本と異なる住まいの在り方を感じられ、研究に活かすことのできる新しいアイデアを得られたように思う。